地域における乳幼児健康管理方式に関する研究

母子健康手帳の利用法

西　川　滇　八（日本大学医学部）

本年度は，母子健康手帳の利用状況を評価する基礎資料を得る目的で，中小企業の多いA地区と高層住宅のあるB地区を対象として，それぞれの地区の乳幼児の発育状態および疫病構造について地域差をみるべく検討したので報告する。

調査方法

前記両地区の保健所の協力を得て，4ヶ月児と3才児検診カードを利用し，昭和47，48年に4ヶ月検診を受診したもの，さらに3年後の50，51年に3才児検診を受診した7,410名について検討した。

結果および考察

4ヶ月検診および3才児検診の地区別受診率を示すと表1.に示したとおりである。

4ヶ月検診時のA地区においては，対象者数4,272名に対し検診を受けたものは3,687名で受診率は90.5%であった。これに対してB地区においては，対象者数3,618名に対して検診を受けたものは3,443名であって受診率は95.2%でありB地区が有意に高かった。

表1.　地区別受診率

〔4ヶ月検診〕　47，48年

	A地区	B地区
対象者	4,272	3,618
検診者	3,682	3,443
受診率	90.5%	95.2%

〔3才児検診〕　50，51年

	A地区	B地区
対象者	3,789	3,880
検診者	3,009	3,359
受診率	79.4%	86.6%

3才児検診のA地区においては，対象者数3,789名に対して検診を受けたものは3,009名であり，受診率は79.4%であった。これに対して，B地区においては，対象者数3,880名に対して検診を受けたものは3,359名であり，受診率は86.6%であり，4ヶ月検診と同様B地区のほうが有意に高かった。

このように，B地区においては一般地区の受診率より高いが，その理由としてはつぎのように考えられる。①この団地内に保健相談所が設置されていて，検診が受け易いこと。また，②この相談所は電話相談が可能で，1日300通話の相談に応じている。③出生した時よりこの相談所が身近な存在となっている。さらに間接的条件として，①母親が若く，平均1.5人の子供を持ち育児への関心が高い。②団地という条件から競争心が高い。③集団的行動に敏感なことなどがあげられる。このように，A地区の受診率は，他の一般と比べけっして低いのではなく，B地区の団地とゆうことがA地区よりも受診率を高くしていると考えられる。

次に，これらの両地区における4ヶ月検診時の身長及び体重を比較すると表2－1，2に示すとおりである。

両地区における身長および体重を「大」「中」「小」の三分類にしてみた。この大中小は検診カードに示されている記載方法によるもので，下記の平均範囲に入るものを「中」とし，それ以上のものを大，それ以下のものを小とした。本来，大中小は，平均$\pm\frac{1}{2}$標準偏差で分類すべきであるが，今回はカード区分に従った。

平均値

3～4ヶ月

身　長　♂60.9±2.7　♀59.9±2.7

体　重　♂　6.3±0.8　♀　5.8±0.8

4～5ヶ月

身　長　♂63.2±2.8　♀61.9±2.8

体　重　♂　6.8±0.8　♀　6.4±0.8

その結果，4ヶ月検診時における身長ではA地区において大が12.5％，中が39.8，小が49.7％であり，B地区においては，大が29.2％，中が40.3％，小が30.5％であった。大きいものの割合と小さいものの割合が両地区の間において有意の差であり，B地区に大きいものが多く，小さいものが少なかった。

表2－1　4ヶ月検診における身長の比較

	A地区		B地区	
大	484	12.5％	1,005	29.2％
中	1,536	39.8％	1,388	40.3％
小	1,843	47.7％	1,048	30.5％

体重では，A地区で大24.6％，中43.6％，小31.2％であり，B地区では大43.0％，中24.7％，小32.3％であって，体重の大きいものの割合がB地区において有意に多かった。

表2－2　4ヶ月検診時における体重の比較

	A地区		B地区	
大	953	24.6％	1,479	43.0％
中	1,686	43.6％	850	24.7％
小	1,205	31.2％	1.111	32.3％

3才児検診における身長および体重を比較すると表3－1，2に示す通りである。

先の4ヶ月検診時と同様に身長および体重を「大」「中」「小」に分類すると次のようである。

平均値

3才0～6ヶ月

身　長　♂94.4±0.9　♀93.0±1.7

体　重　♂14.1±0.8　♀13.4±0.7

3才6～12ヶ月

身　長　♂97.8±2.1　♀96.4±1.9

体　重　♂15.0±0.8　♀14.3±0.7

3才児検診における身長は，A地区で大26.4％中43.6％，小30.0％であり，B地区では大35.8％，中40.4％，小23.8％であり，B地区において身長の大きいものの割合が有意に多かった。体重においては，A地区で大30.5％，中42.5％，小27.0％であり，B地区では，大51.8％，中36.2％，小12.0％であり，体重の重いものの割合がやはりB地区で有意に多かった。

表3－1　3才児検診における身長の比較

	A地区		B地区	
大	795	26.4％	1,202	35.8％
中	1,312	43.6％	1,357	40.4％
小	902	30.0％	799	23.8％

表3－2　3才児検診　おける体重の比較

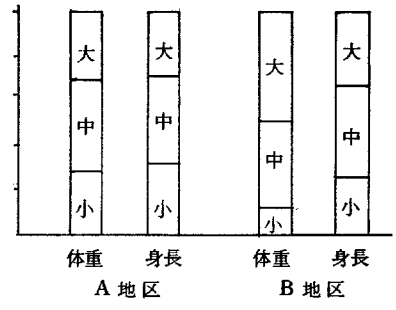
	A地区		B地区	
大	1,007	30.5％	1,740	51.8％
中	1,279	42.5％	1,216	36.2％
小	812	27.0％	403	12.0％

このように，4ヶ月検診時および3才児検診において身長，体重の大きいものの割合がいずれもB地区に多いことが明らかである。

この身長と体重の関係を示すと図1の通りである。

A地区においては，身長，体重の大，中，小の割合に大きな差が認められないが，B地区においては，身長と体重を比べると，身長に対し体重の大きいことが判明する。つまり肥満児がA地区よりB地区において多いことが推定される。この原因としては，栄養の問題，運動量の問題，団地の特異性など種々の要因が考えられるが，この点に関してはより詳細に調査研究しなければならない。

図1　3才児検診における身長，体重との関係



次に4ヶ月検診時の疾病異常について示すと表4の通りである。

疾病異常のうち，最も多いのは皮膚科領域の疾患であり，いずれの地区においても全体の６５％程度を占めている。ついでＬＣＣであり，Ａ地区において5.9％，Ｂ地区において１2.1％ でありＢ地区において有意に多かった。さらにヘルニヤ，呼吸器疾患，斜頸の順であった。地域的にみると，Ａ地区において呼吸器疾患が多く，Ｂ地区においてはＬＣＣ，ヘルニヤ，斜頸が多くなっていた。

表4.　4ヶ月検診時における疾患異常

	A地区	B地区
皮膚科領域	67.6 %	64.2 %
LCC	5.9 %	12.1 %
ヘルニヤ	5.4 %	7.5 %
呼吸器疾患	5.75%	1.35%
斜　頸	4.6 %	7.9 %
発育異常	3.7 %	2.2 %
心 疾 患	0.9 %	2.3 %
そ の 他	6.15%	2.45%
合　計	100.0	100.0

Ａ地区において呼吸器疾患が多かった理由としては，①幹線道路が通っていること。②中小企業の工場が多数あることなどが考えられる。他の疾患については今後の検討に待たなければならない。

３才児検診時における疾病異常を示すと表5の通りである。

両地区で最も多いものは皮膚科領域の疾患であり，両地域とも３０％程度を占めている。ついで内科領域の疾患であり２０～２５％ 程度，さらに眼科，耳鼻科，外科の順となっている。

疾患別では，湿疹が最も多く，ついで喘息様，気管支炎，ヘルニヤ，斜頸の順である。

本調査が，４ヶ月児と３才児が同一児であることを考慮に入れて検討してみると，皮膚科，眼科等において４ヶ月の時点および３才の時点に大きな変化は認められないが，内科領域のうち，呼吸器疾患はＢ地区において４ヶ月検診時で１％にも満たなかったものが３才児においては，7.8％と著しく増加しているのが注目された。

次に栄養方法は，体の発育，疾病異常と関係をもつため検討を試みたが表6のとおりである。

両地区とも人工栄養が最も多く 61.3～62.1 ％であり，ついで母乳の 17.5～18.3 ％，混合によるものが19.6～20.9 ％であり，両地区間に摂取方法に大差がなかった。

表5　３才児検診時の疾病異常

	A地区	B地区
皮膚科領域	33.7%	28.5%
内科領域	22.7%	24.6%
眼科領域	8.2%	10.6%
耳鼻科領域	8.4%	6.8%
外科領域	2.6%	0.5%

表6　４ヶ月検診時の栄養方法

	A 地 区		B 地 区	
人　工	1,303	62.1%	1,460	61.3%
母　乳	383	18.3%	415	17.5%
混　合	412	19.6%	494	20.9%

結　論

母子健康手帳に記載される身長，体重，疾病異常などについて同一児の４ヶ月検診および３才児検診の際の所見を検討した結果，この両地区は隣接しているのにもかかわらず発育状態，疾病異常などに明らかな地域差が認められた。

検索用テキスト　OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

本年度は,母子健康手帳の利用状況を評価する基礎資料を得る目的で,中小企業の多いA地区と高層住宅のあるB地区を対象として,それぞれの地区の乳幼児の発育状態および疫病構造について地域差をみるべく検討したので報告する。